

初等部6年 畑の発表会

「ジャガイモを通して学んだこと」

大隈 賢

今年は特に「作物に足音を聞かせる」ということを皆で心がけ、意識して畑に足を運ぶよう心がけた。2学期に入ってから、子どもの興味に沿ってグループを作り、ジャガイモの植物としての特徴、栽培過程、歴史、毒性、生産地、輸出輸入量・品種について各自調べたことを報告し合った。そうした学習をする中で、日々の生活の中で起きる出来事と、畑での学びの接点が浮かび上がり、そこから「物事の良い面、悪い面」という、ものの見方に関する学びへと深まっていた。以下に発表会当日の報告文を掲載する。紙面の関係上、ここでは指示語に当たる写真を全て掲載することができないが、一人ひとりの報告に見合ったスライドがスクリーンに投影されていたことをご考慮頂ければと思う。

I はじめに



【鈴木温大】ここにあるトマト、ナス、ピーマン、ジャガイモは、どれも、花の形や色が似ています。でも、実は、色も形も味も違って不思議です。これは、トマトのようですが、ジャガイモの実です。



【二宮】現在は、品種改良をしているので、実のできないジャガイモがほとんどですが、自然に生えるジャガイモは、このように実ができます。この実は、ソラニンやチャコニンなどの毒の成分が多く食べられません。僕たちが食べているじゃがいもは、実のようですが、茎の一

部で、「塊茎」という茎が大きくなったもので、実ではありません。

II ジャガイモの栽培過程

【高本】4月10日、私たちはジャガイモについての説明を聞きました。4月13日、畑の広さから、作れるうねの数を計算し、うねを作りました。4月14日、植え付けをしました。ジャガイモが病気になるように、半分にしたジャガイモの切り口に灰をつけ、30cm間隔で植えました。

【海老原】4月17日 「上農は草を見ずして草をとる」という言葉を教わりました。これは、草が生えてくる前に、その原因となる種を動かして根付かないようにするという事です。写真は、小さい草をとったり、土を動かしたりすることで、雑草が出ないようにしています。



【大林】24日 ジャガイモの葉が出てきました。
25日 本葉も出てきました。28日 GW前で、できるだけ土を動かしたり、草をとったりしています。
【田辺】5月2日本葉がどんどん大きくなってきました。8日GWが明けると、こんなに葉が大きくなってい

ました。15日芽かきをしました。芽かきとは、茎を2-3本残して、残りの茎を取り去ることで。こうすると、できる芋の数は少なくなるけど、大きないもができます。これは、芽かきでとった茎です。この写真は芽かきをする前で、これは芽かきをした後です。

【川嶋】5月18日 足音を聞かせるよう心がけ、見に行きました。5月26日 花が咲きました。花が咲いたときは、とてもきれいでうっとりしました。

5月29日花のスケッチを皆でしました。



【栢澤】6月5日土寄せといって、地面の表面にできたジャガイモが出ないように、また、大きくなった茎が倒れないように土を茎の周りに寄せる作業をしました。6月22日 草取りです。もうジャガイモが大きくなって、足の踏み場もあまりないので、作業をしにくかったです。

【八木】7月3日、収穫です。例年は、平均50kgほど収穫できますが、今年は39kgでした。これは6月に雨が少なかったことが影響したからだと思われます。7月5日お昼の食事で、ベイクドポテトとして14kgが使われました。



Ⅲ ジャガイモを利用した学習

7月13日。家庭科の調理実習で、ジャガイモもちを作りました。夏休みには、おさらいでジャガイモのでんぷんとりをしました。

【藪内】この他にも、理科の授業で葉緑素を取り出したり、美術ではジャガイモのスケッチをもとに、銅板の作成をしました。このとき作った銅板は体育館の入口にあるので、どうぞご覧ください。

【荒川】2学期に入り、ジャガイモのことについてグループで学習をしました。ジャガイモの歴史、世界でのジャガイモの生産量や、輸出輸入のこと、植物としての分類、ジャガイモの種類、ジャガイモの毒のことについて、それぞれが調べ、クラスで発表して聴き合いました。その中で、今回は歴史のことについて報告します。

Ⅳ ジャガイモのたどった歴史

【栗田】ジャガイモは、中南米のアンデス山脈で生まれました。16世紀にヨーロッパにもたらされたジャガイモは、当初はその見た目の悪さから「悪魔の作物」と言われていました。確かに、芽の出た様子は、少し不気味で、芽や皮にはソラニンなどの毒が含まれているので、そう言われたのも分かる気がします。

【熊谷】しかし、17世紀、ヨーロッパ各地できんが起ると、各国の王は、寒さに強いジャガイモの栽培を広めようとなりました。この時、ジャガイモは、広く受け入れられるようになりました。また、地面の中で育つジャガイモは、麦などと違い、戦争で畑がふみあらされても収穫できることと、農民がジャガイモを食べることで領主たちは、自分の麦の取り分を増やそうとした目論見もあったようです。

【後藤】一方、日本には、インドネシアのジャカルタからオランダ船に乗ってやってきました。そのため、ジャカルタから来た芋ということで、ジャガタライモとなり、今ではジャガイモと呼ばれるようになりました。その後、江戸時代には、何度も起きたきんの度に、人々の飢えをしのぐ、命の源として、普及しました。

【鈴木あかり】ジャガイモは、芽や皮に毒が含まれ、毎年のように事故の事例がありますが、歴史的には何度も人々をきんから救い、今も私たちの食事に欠かせない存在となっています。ジャガイモの毒による事故が起きないようにするためにも、ジャガイモについて正しい知

識を持ち、それに習って調理することが大切です。

V 物事の良い面・悪い面

【富山】6年生は、6月から7月に鎌研ぎの練習と、研いだ鎌で草を刈ることをしました。そのときに、鎌の良い面と、悪い面についての話を聞きました。鎌は、草を刈っている分には便利な道具ですが、使い方を間違えると人を傷つける凶器になります。



ジャガイモも、毒を含みますが、毒を多く含む皮や芽を取り除いたり、品種改良を行ったりすることで、人々の命を救ってききました。

【伊藤】こうしたことを通して、私たちは、様々な物は、それ自体が良いか悪いかではなく、良い面と悪い面があるということ意識するようになりました。考えてみれば、車や、スマートフォン、お金など、便利だけれども使い方を間違えれば良くないものは身の回りにたくさんあります。

また、箱根の宿泊学習では、火山が怖いものであると同時に、温泉などの観光資源になることも学びました。このように自然の中にも、私たちに優しい面と、怖い面があることが分かってきました。

【近藤】そして、それは、目に見えるものだけではなく、目に見えないものにもあります。例えば、友達関係です。友達と仲良くしたいために良いか悪いかではなく、相手の気持ちを優先しすぎて友達が間違ったことをしても注意しづらくなってしまふことがあります。しかし、何かをなすとげ、本当におたがいを高めていくには、時には厳しい言葉も伝えていくスポーツのチームの「仲間」のような関係が必要です。友達といっても、本当に良い関係とは何か、よく考えていかなければいけません。

【平野】また、言葉もそうです。言葉は、時に人を傷つけ、命を奪うことさえあります。しかしまた、傷つけられた人を立ち直らせたり、救ったりできる言葉もあります。他にも、感情や、おもしろさ、信じる、といったことにも良い面と悪い面があると分かってきました。そして、良い力があるものほど、悪い力もあるということも分かってきました。

VI まとめ・感想



【小山】この写真は、先週の土曜日に、クラスでジャガイモの料理をしたときの写真です。グループごとに、献立を考え、材料を持ち寄り、協力して作って、食べて、楽しい時間にすることができました。僕たちは、初等部の6年間で、土や畑と一緒に過ごしてきました。畑は、手入れが必要です。手入れをするのは大変だけど、その分収穫ができると、達成感があります。6年間の畑の学習では、豊作の時もあれば不作の時もあり、農作業の大変さと、喜びと、食べ物のありがたみを感じるようになりました。これからも、食べ物を作ってくださいの方々、与えて下さる神様に感謝していきたいです。

これで、6年生の報告を終わります。

VII 参考文献

山本紀夫(2008)『ジャガイモの世界史』中公新書

伊藤章治(2008)『ジャガイモのきた道』岩波新書

ジャガイモ博物館(<http://www.geocities.jp/a5ama/>)

2017. 11 アクセス

農林水産省HP ジャがいもについて

(<http://www.maff.go.jp/j/kids/crops/potato/column/01.html>)

2017. 11 アクセス